

深沢地区防災計画

【令和7年修正】

深沢地区

目次

- 1 深沢地区の特性 深沢-1(-683-)
 - (1)自然特性 深沢-1(-683-)
 - (2)社会特性 深沢-2(-684-)
 - (3)地域危険度 深沢-4(-686-)
 - (4)被害想定 深沢-5(-687-)
 - (5)防災資源一覧 深沢-8(-690-)
 - (6)防災資源マップ 深沢-9(-691-)
 - (7)区民アンケート 深沢-10(-692-)

- 2 各団体の防災活動～現在の取組状況～ 深沢-19(-701-)

- 3 深沢地区の課題と取り組み 深沢-25(-707-)
 - (1)命を守ること 深沢-25(-707-)
 - (2)地区全体の安全の確保と被害が広がらないための対策 深沢-27(-709-)
 - (3)助かった人の命と健康が守られること 深沢-28(-710-)
 - (4)地域の復興に向けた支援を早く受けられること 深沢-30(-712-)

1. 深沢地区の特性

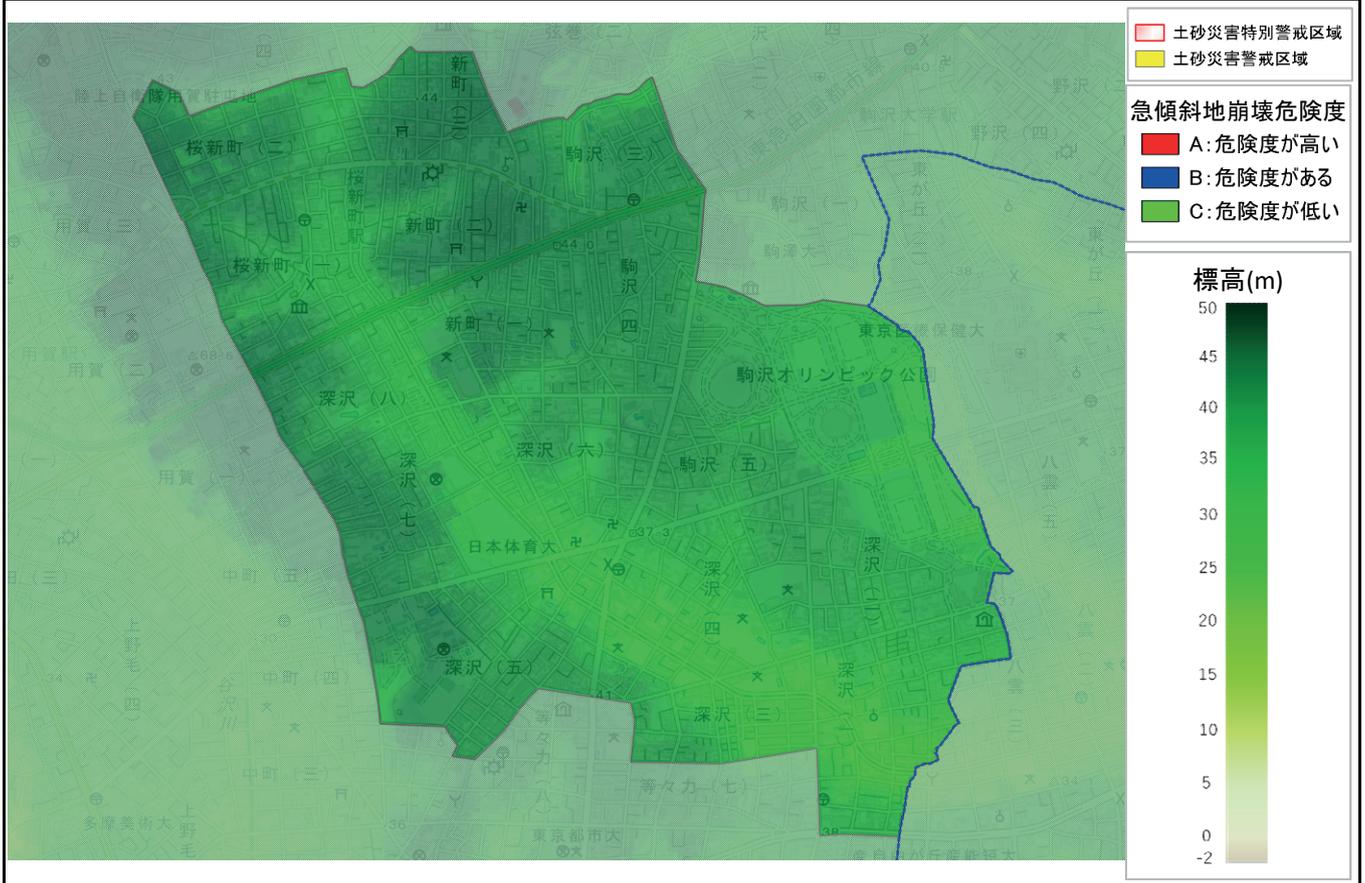
(1)自然特性

面積	3.42 Km ²	最高標高	46.5 m	最低標高	28.6 m
----	----------------------	------	--------	------	--------

位置



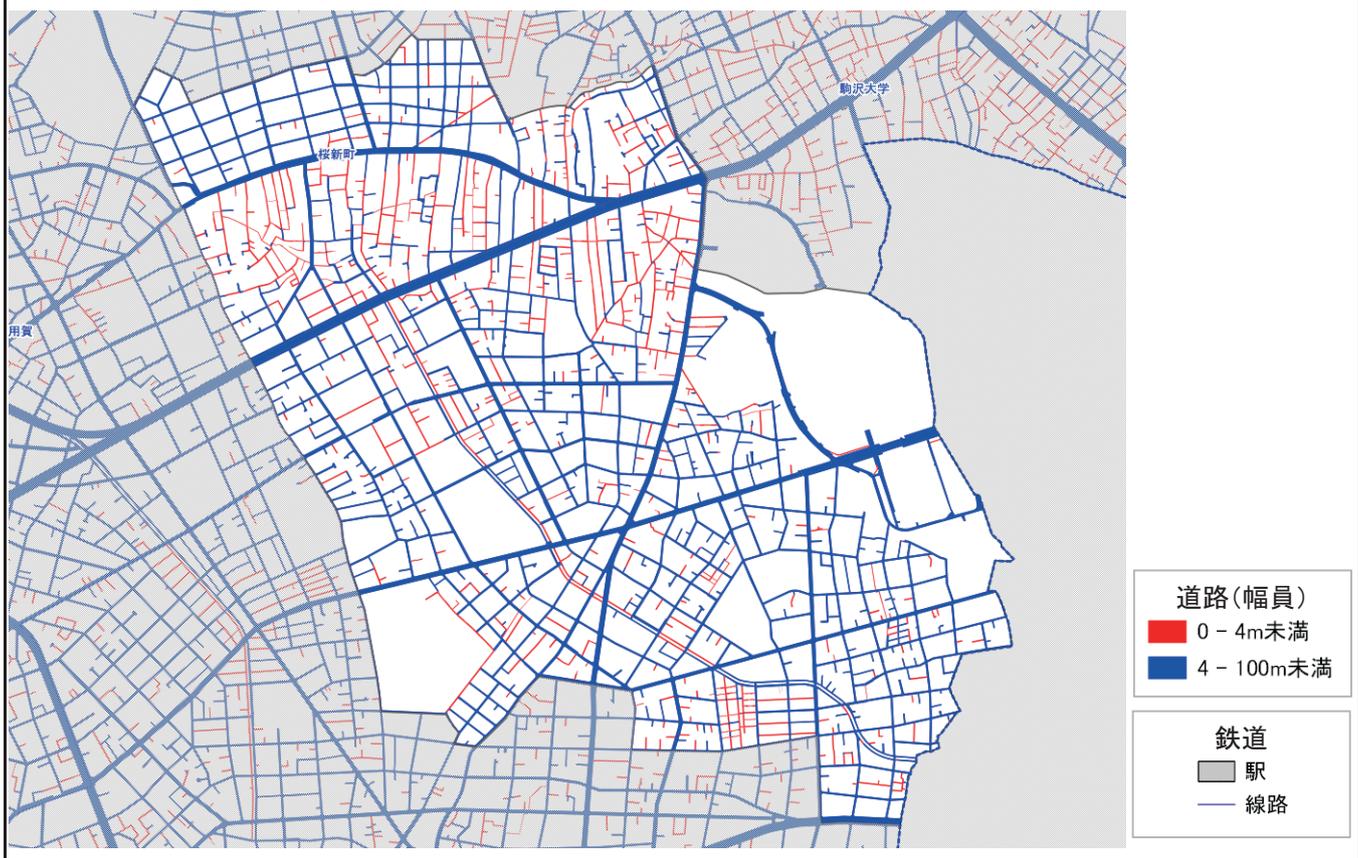
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

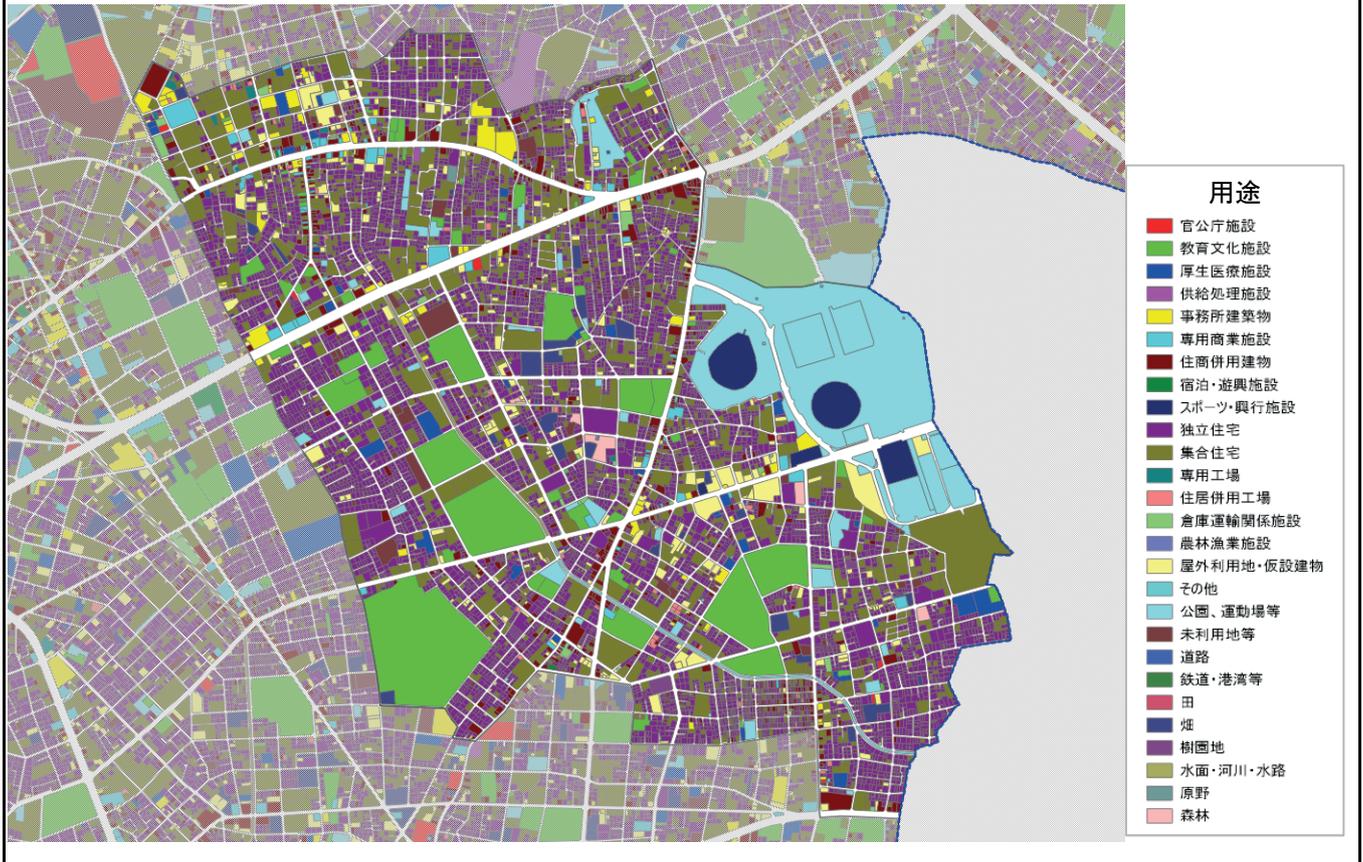
人口	49,194 人	細街路率	27.3 %	
世帯数	24,481 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	69.0 棟/Km ²	
1世帯あたり	2.01 人	耐火率(建築面積ベース)	64.5 %	
若年層数(15才未満)	6,281 人	土地利用(宅地)	66.0 %	
若年層率(15才未満)	12.8 %	土地利用(宅地以外)	34.0 %	
高齢者数(65才以上)	10,332 人	鉄道駅	東急田園都市線桜新町駅	
高齢者率(65才以上)	21.0 %			
昼間の人口	46,984 人	産業	商業	78.0 %
夜間の人口	50,259 人		工業	7.7 %
昼夜間人口比	0.93 -		農業	14.4 %
町会・自治会数	9 -			

道路・公共交通機関



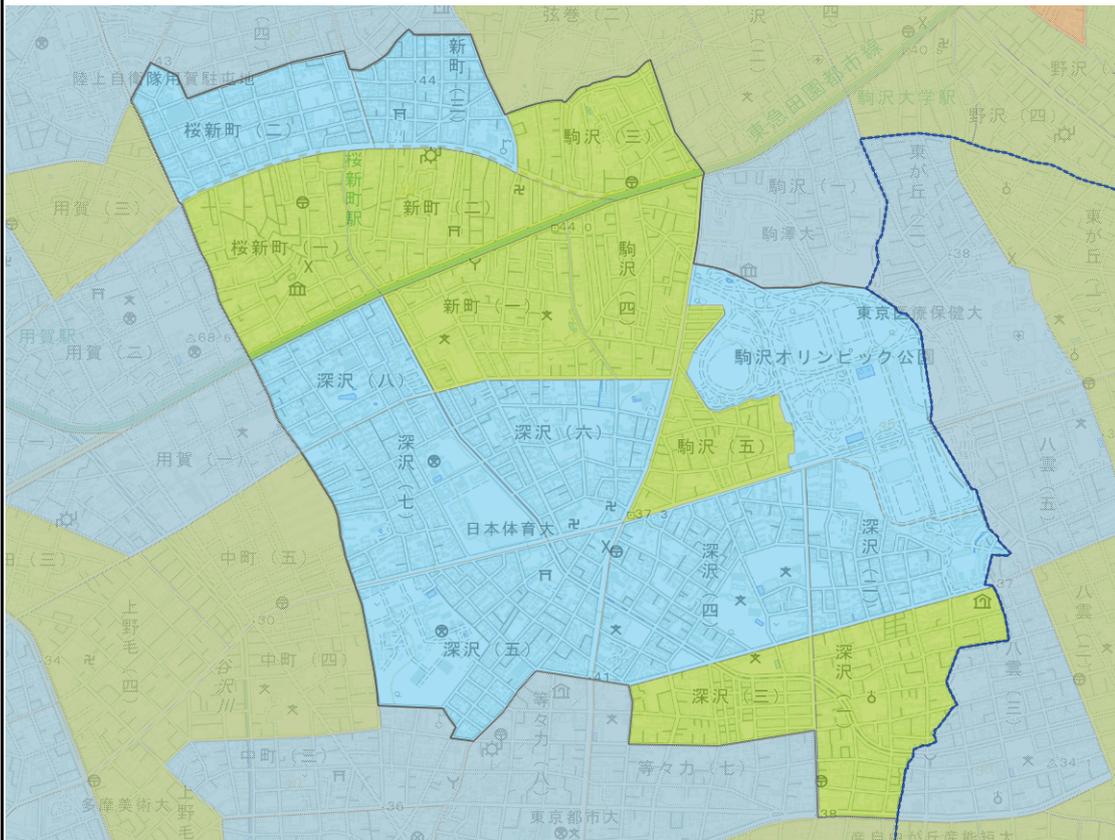
(2)社会特性

産業



(3)地域危険度

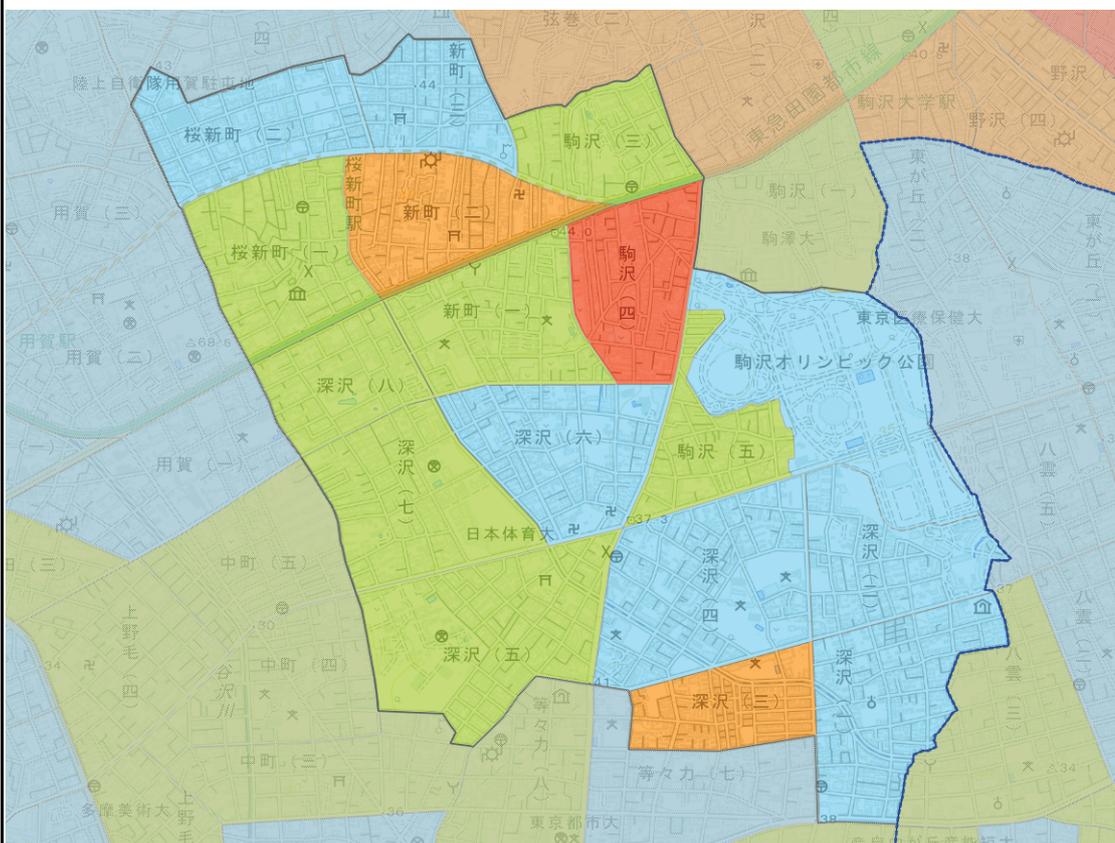
建物倒壊危険度



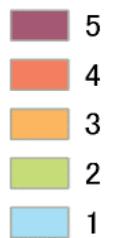
建物倒壊危険度



火災危険度



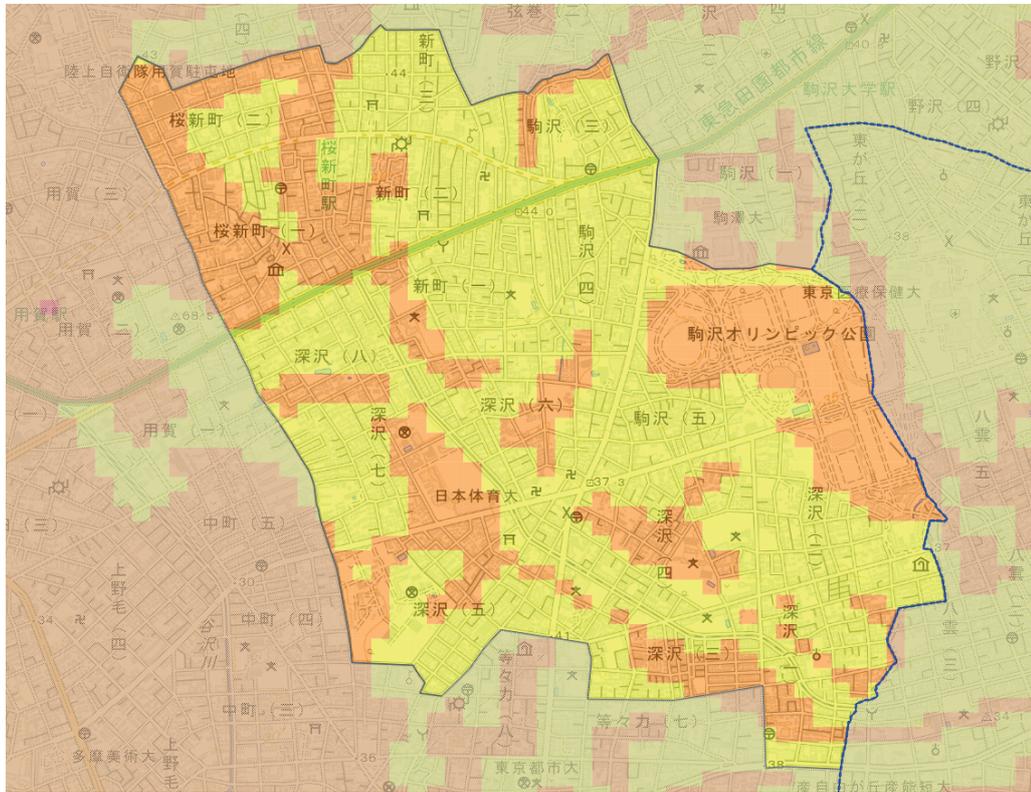
火災危険度



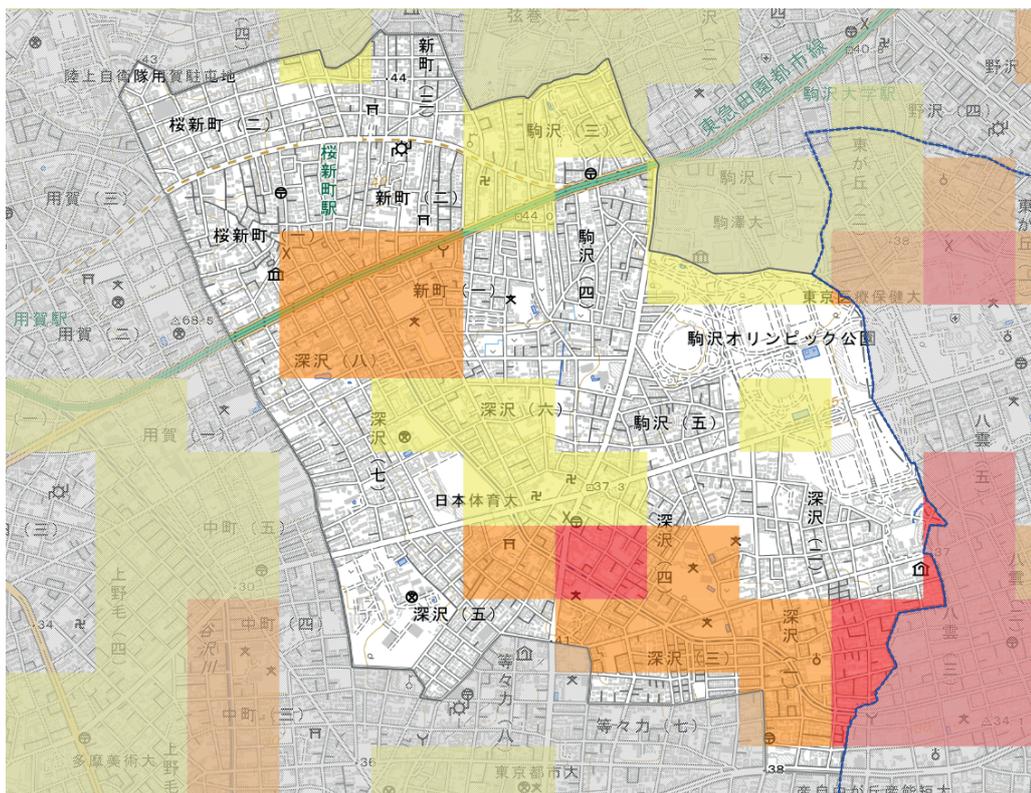
(4)被害想定

全壊棟数	163 棟	死者	21 人
半壊棟数	629 棟	負傷者	231 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	595 棟	うち重傷者	39 人

震度分布

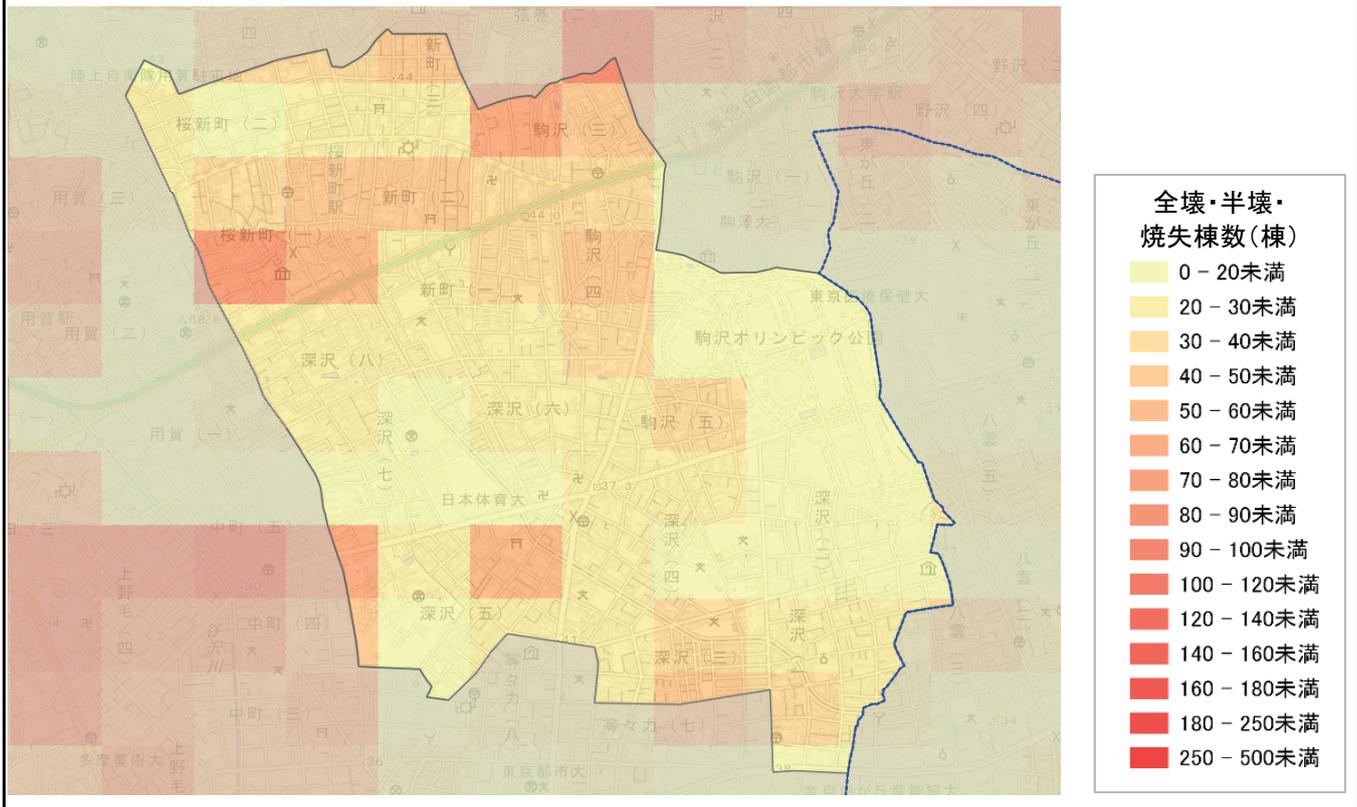


液状化分布



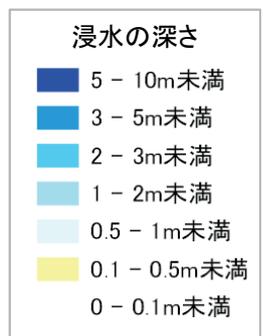
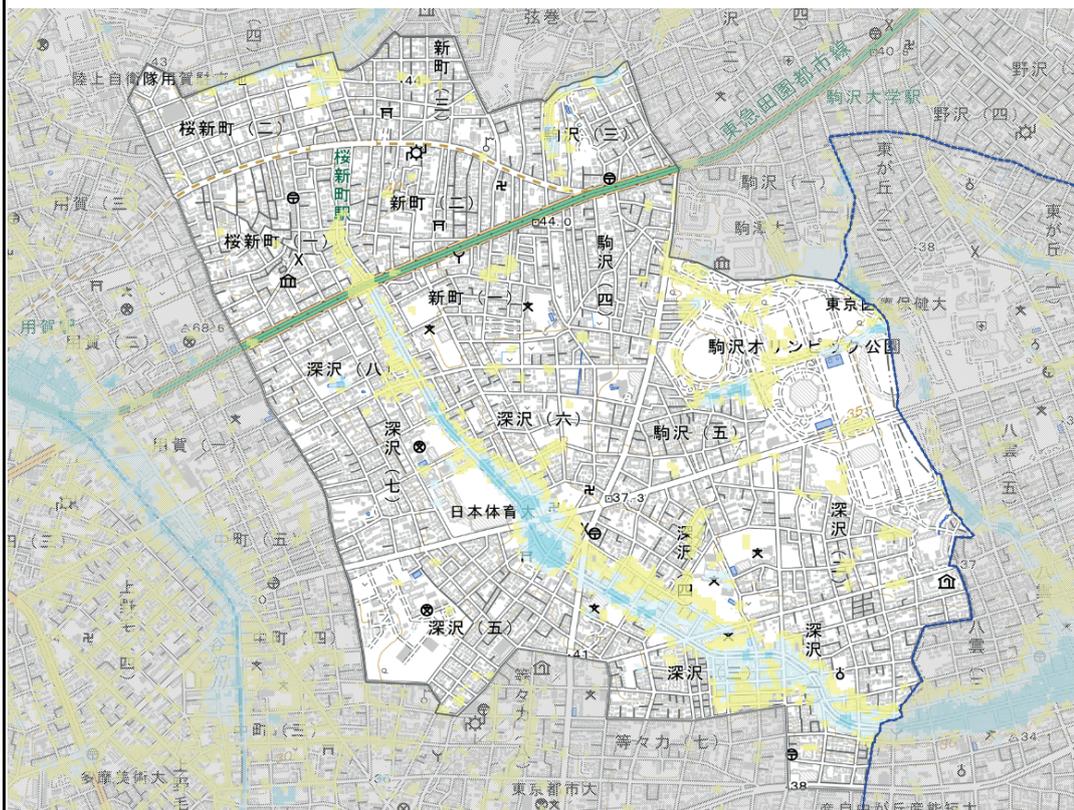
(4)被害想定

被害棟数分布



(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



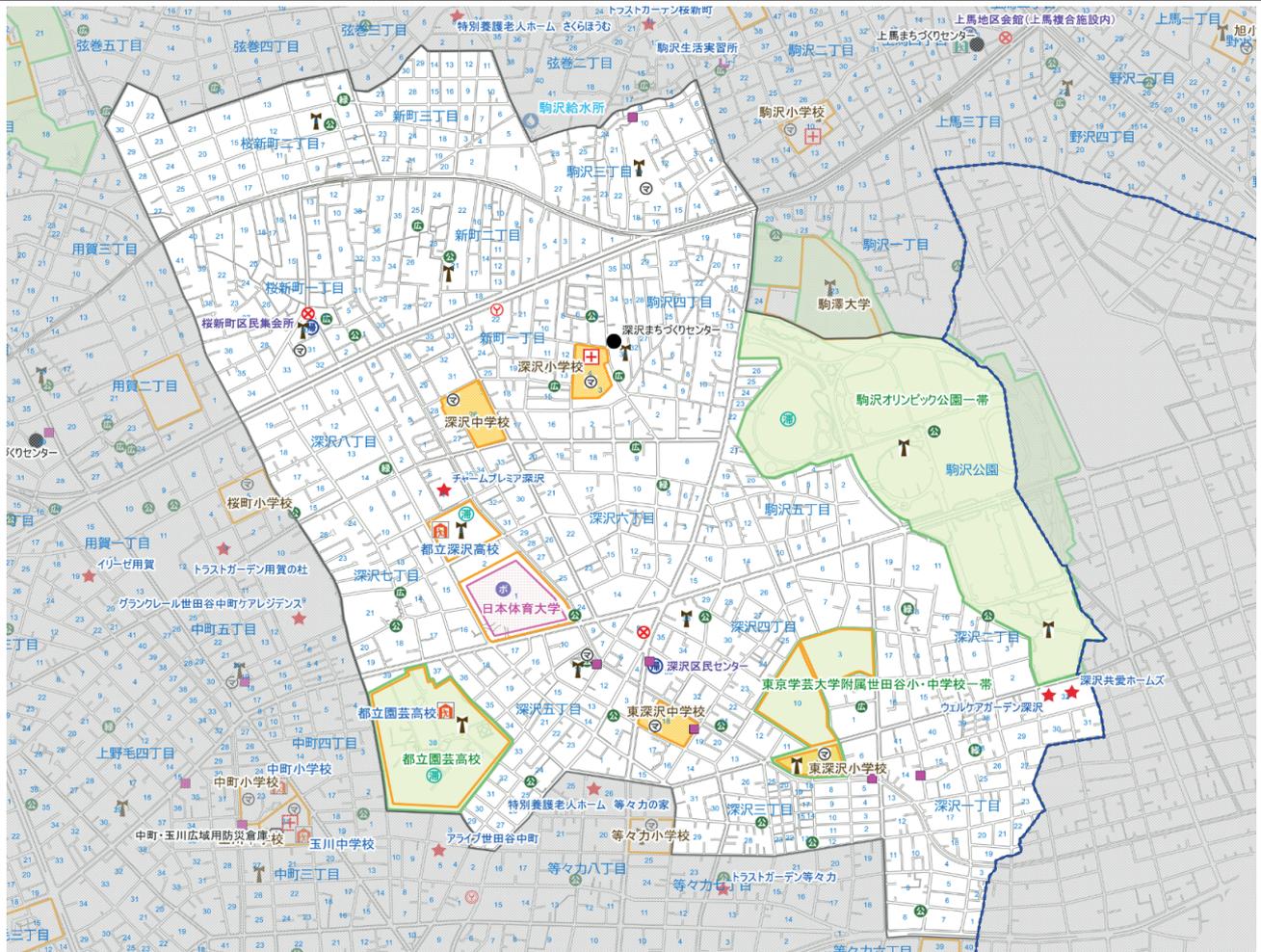
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	駒沢オリンピック公園一帯 都立園芸高校 東京学芸大学附属世田谷小・中学校一帯				
一時集合所	駒沢公園(テニスコート付近) 駒沢公園(西口付近) 駒沢公園(西口野球場付近) 駒沢緑泉公園 桜新町1-1遊び場 三島公園 新町公園 新町南公園 深沢公園 深沢小学校 深沢神社 深沢西公園 深沢中学校 深沢郵政宿舍公園 竹林 都立園芸高校 東深沢小学校 東深沢中学校 畑				
指定避難所	深沢小学校 深沢中学校 東深沢小学校 東深沢中学校				
予備避難所	東京学芸大学附属世田谷小学校 東京学芸大学附属世田谷中学校 都立園芸高校 日本体育大学 都立深沢高校				
福祉避難所(母子)	日本体育大学				
福祉避難所(高齢者)	深沢共愛ホームズ ウェルケアガーデン深沢 チャームプレミア深沢				
福祉避難所(障害者)					
水害時避難所(第1次)	都立園芸高校	都立深沢高校	野川・仙川洪水時避難所		
水害時避難所(第2次)					
土砂災害時避難所					
避難所救護所	深沢小学校				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設	都立園芸高校 駒沢オリンピック公園総合運動場 都立深沢高校				
一時避難施設(車中避難)				帰宅困難者支援施設	2 ヶ所
ボランティアマッチングセンター	日本体育大東京・世田谷キャンパス				
マンホールトイレ	7 ヶ所	防災行政無線塔	12 ヶ所	緑地	6 ヶ所
輸送拠点					
給水拠点					
広域用防災倉庫					
土のうステーション	駒沢緑泉公園(北側) 三島公園 深沢区民センター 深沢地区会館 東深沢中学校(東側) 呑川緑道(深沢3の5付近)				
警察署・交番	桜新町交番 深沢交番				
消防署・出張所	新町出張所				

(6)防災資源マップ



- | | |
|--------------------|-------------------|
| ◎ 総合支所 | ■ 広域避難場所 |
| ● まちづくりセンター | ■ 指定避難所 |
| ⊕ セタがや災害ボランティアセンター | ■ 予備避難所 |
| ⊞ 広域用防災倉庫 | ■ 福祉避難所(母子) |
| ⊙ 給水拠点 | ★ 福祉避難所(高齢者) |
| ⌚ 防災行政無線塔 | ☆ 福祉避難所(障害者) |
| ⊖ マンホールトイレ | 🏠 水害時避難所(第1次) |
| ■ 土のうステーション | 🏠 水害時避難所(第2次) |
| 🚓 警察署 | 📍 野川・仙川洪水時避難所 |
| 🚔 交番 | 📍 水害時避難所(狛江市) |
| 🚒 消防署 | 📍 水害時避難所(調布市) |
| 🚒 消防出張所 | 📍 土砂災害時避難所 |
| 📍 身近な広場 | 🏠 避難所救護所 |
| 🌳 公園 | 🏠 東京都災害拠点病院 |
| 🌲 緑地 | 🏠 東京都災害拠点連携病院 |
| | 🏠 緊急医療救護所 |
| | 📍 一時滞在施設 |
| | 📍 帰宅困難者支援施設 |
| | 📍 ボランティアマッチングセンター |
| | 📍 輸送拠点等 |
| | 📍 一時避難施設(車中避難) |

出典

世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行

世田谷区の町丁目別人口と世帯数 令和6年3月1日

世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日

世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版・内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行

世田谷の土地利用2021 世田谷区土地利用現況調査

世田谷区GISオープンデータ

令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表

地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回]) 令和4年9月

首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日

世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

(7)区民アンケート(深沢地区)

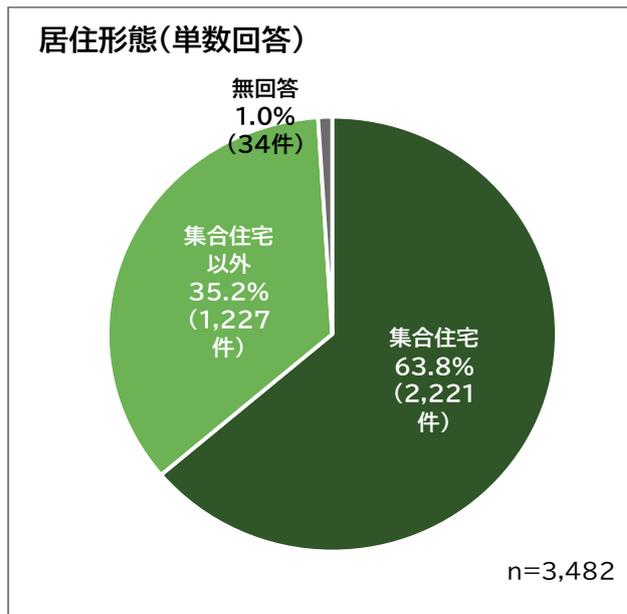
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

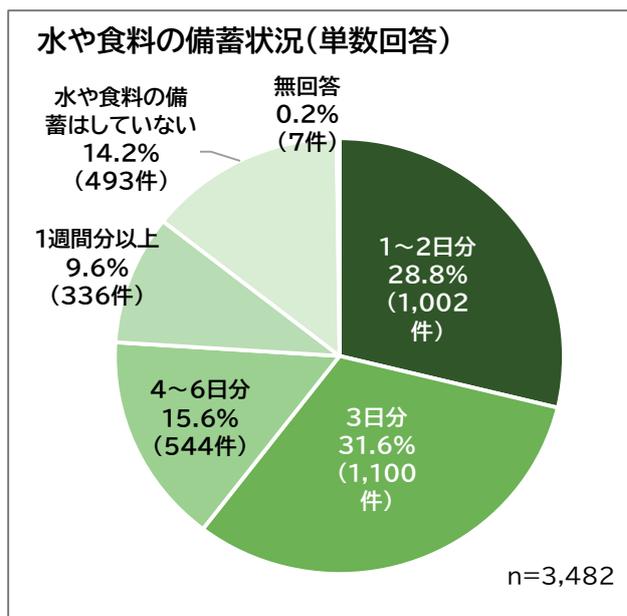
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

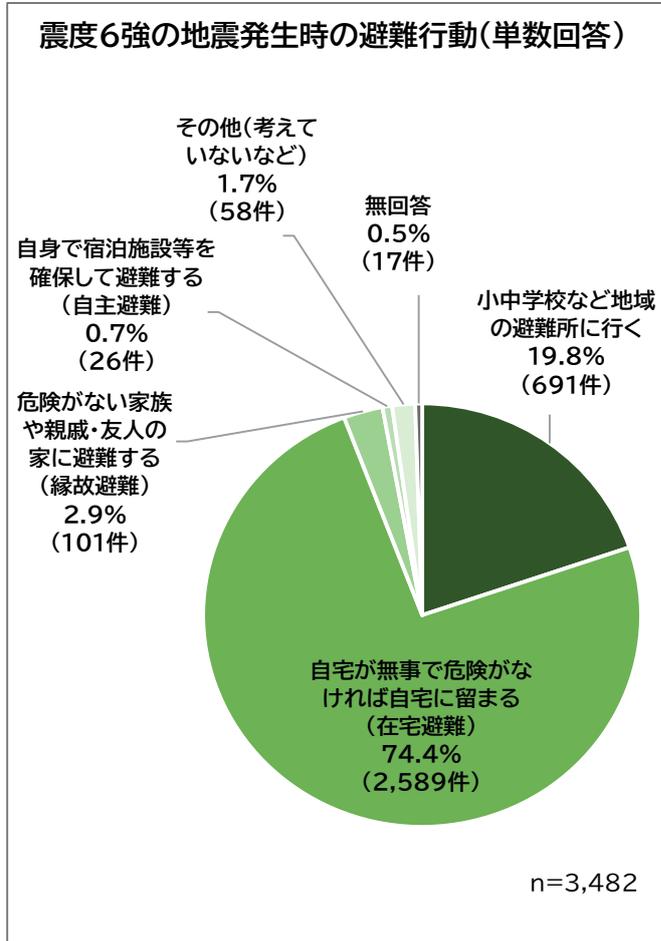


(7)区民アンケート(深沢地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

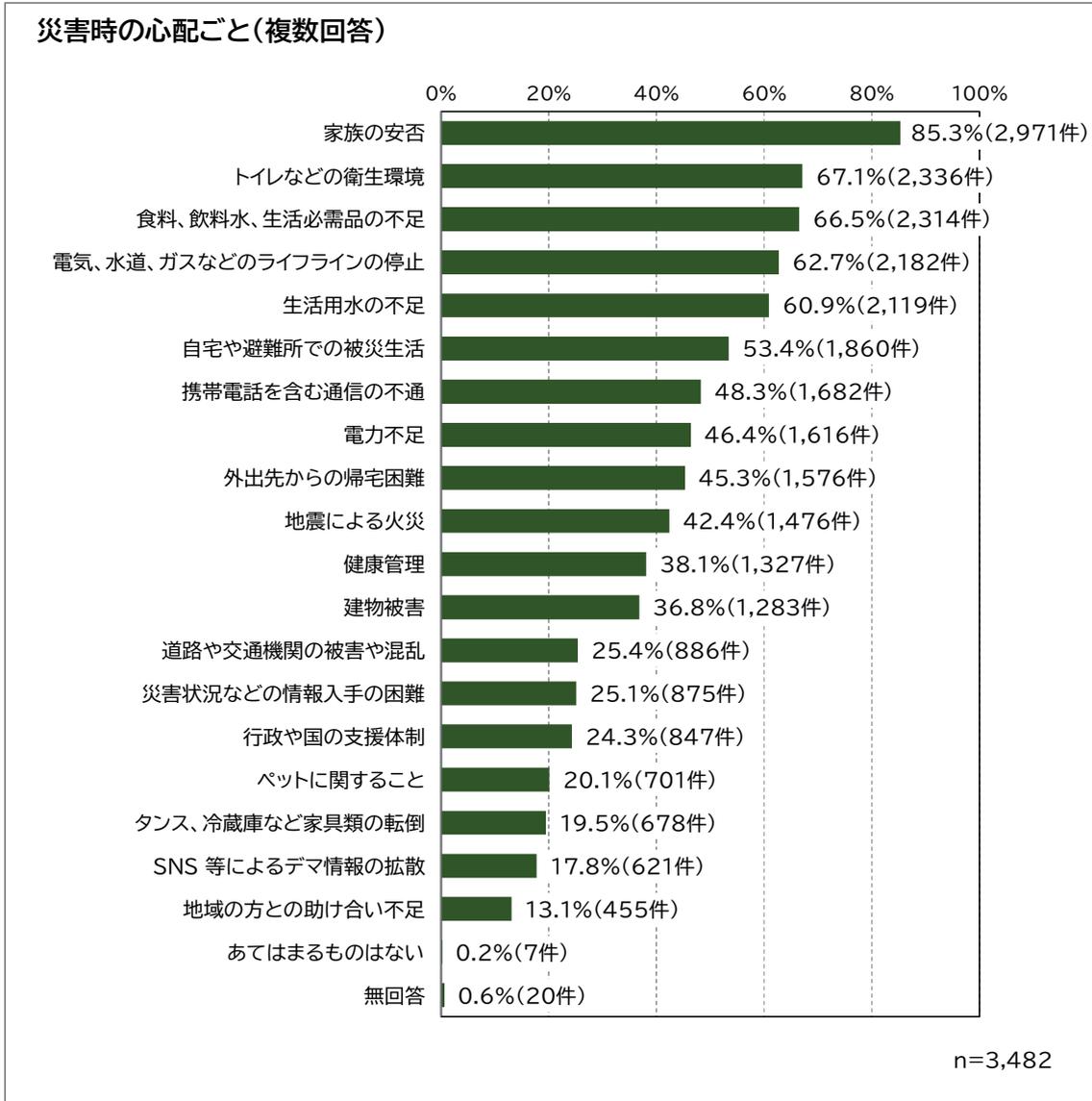


(7)区民アンケート(深沢地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。



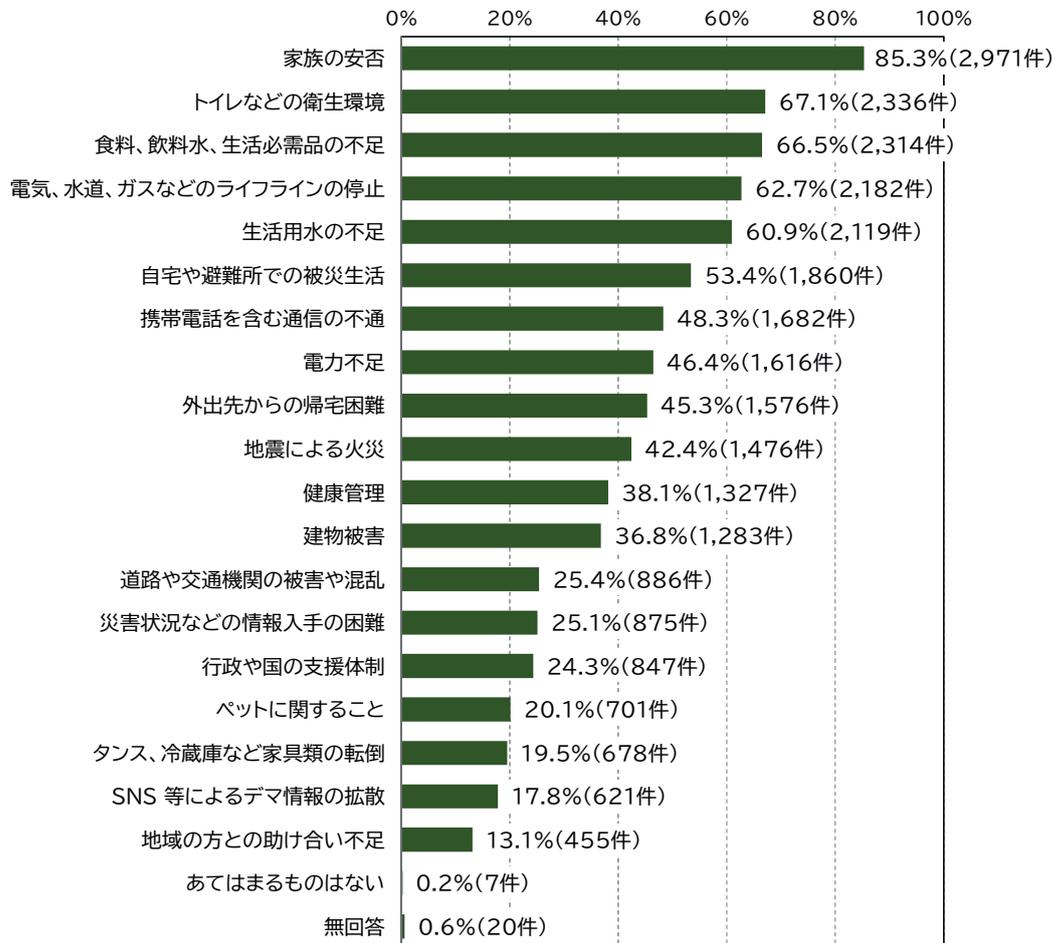
(7)区民アンケート(深沢地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=3,482

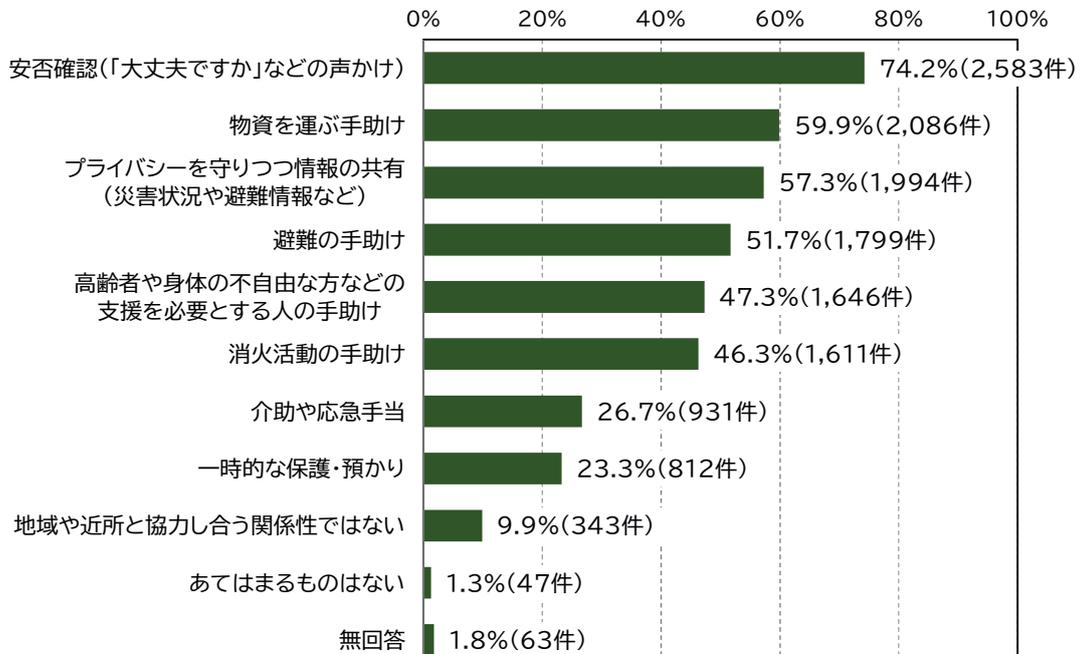
(7)区民アンケート(深沢地区)

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

災害時にできる住民同士の支援(複数回答)

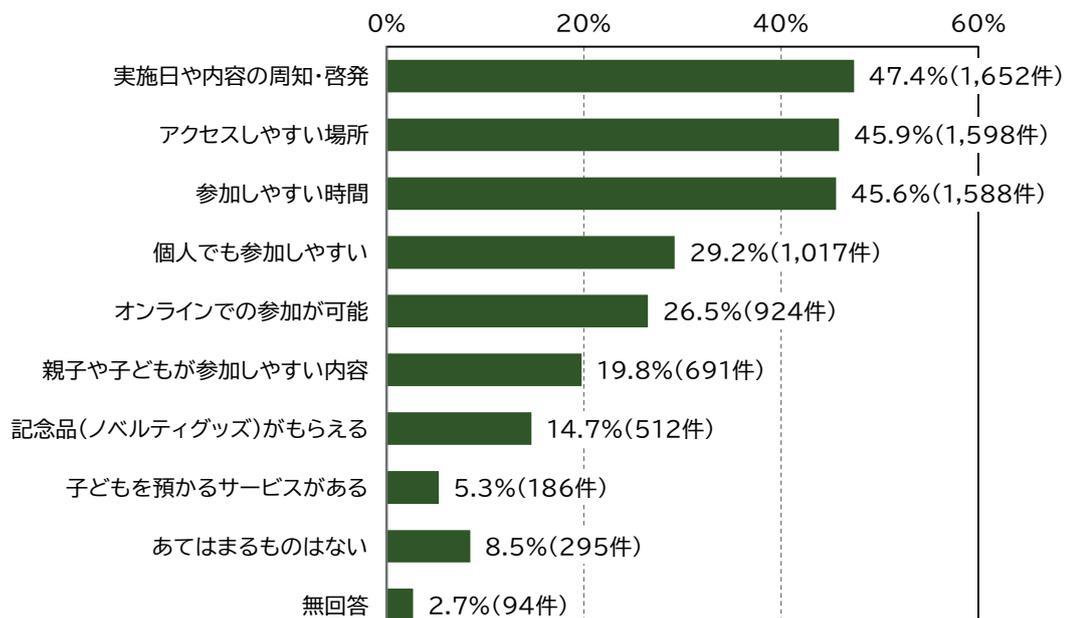


n=3,482

防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



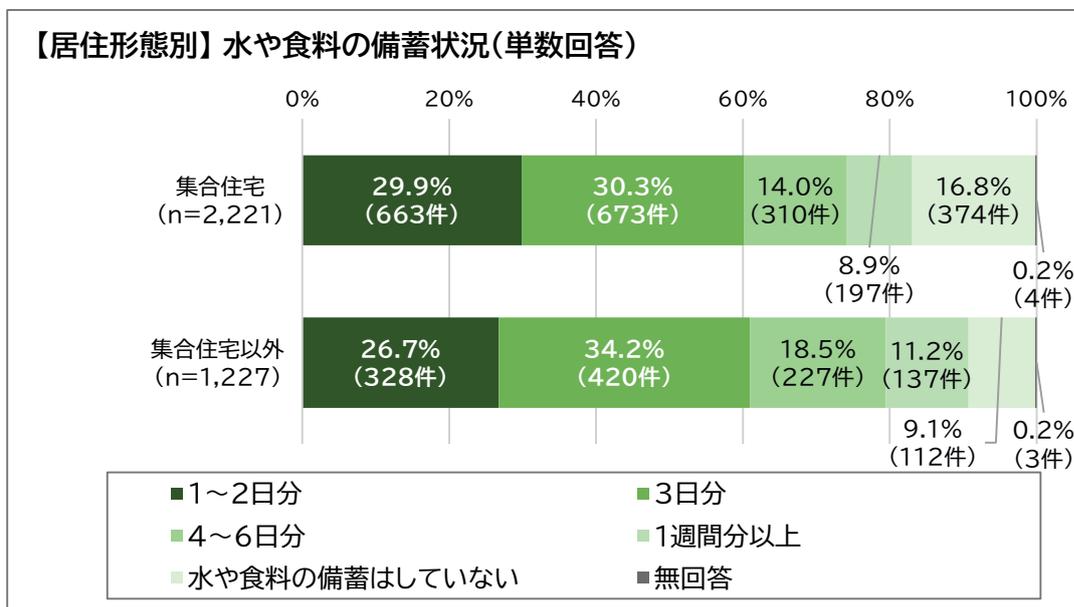
n=3,482

(7)区民アンケート(深沢地区)

クロス集計(1/4)

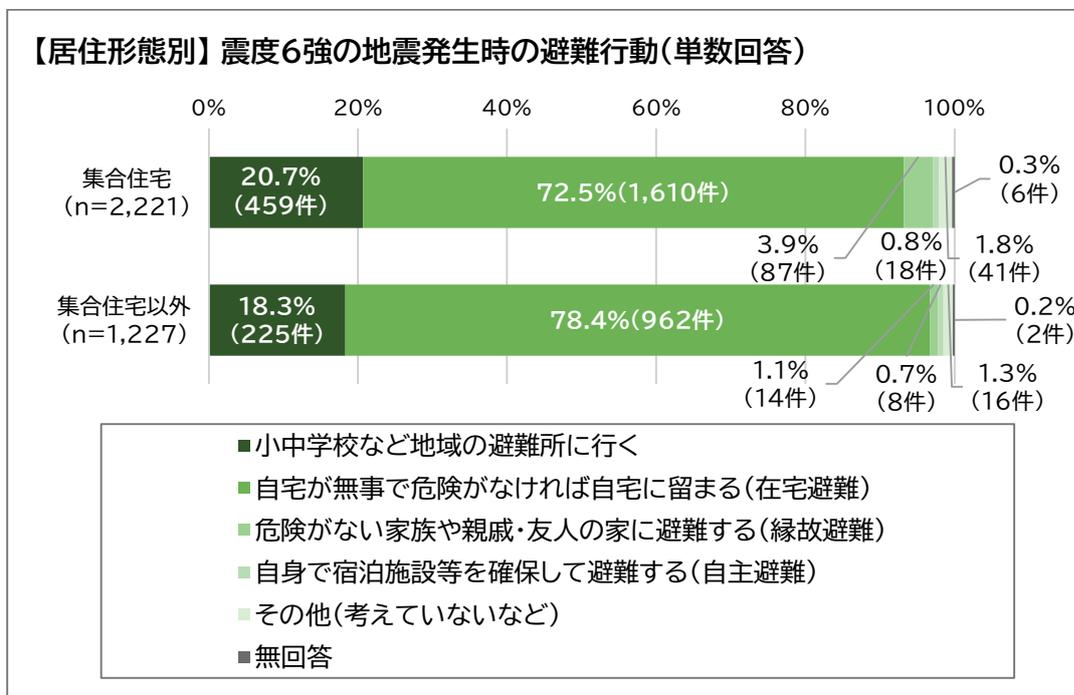
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(深沢地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。



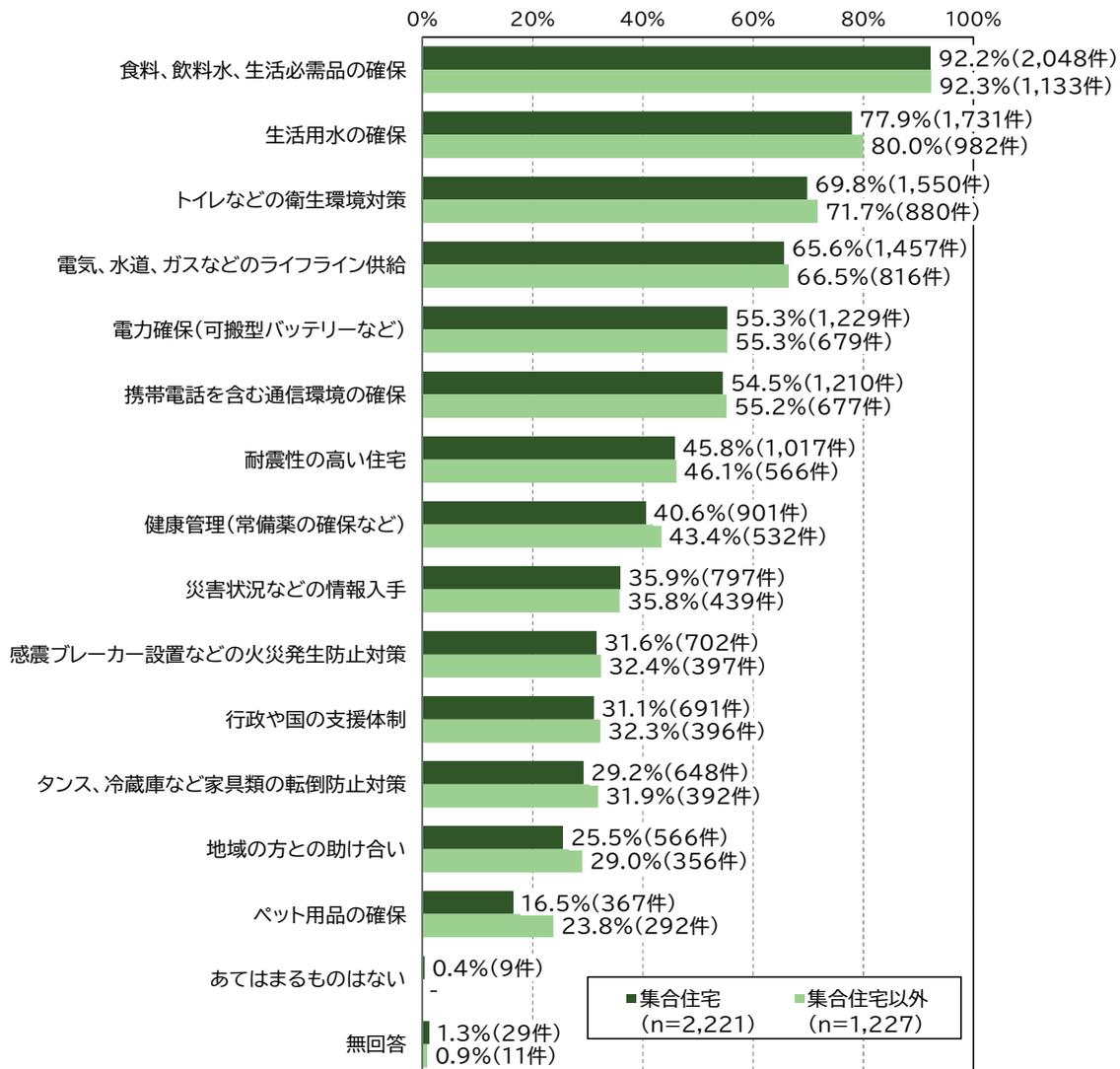
(7)区民アンケート(深沢地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)

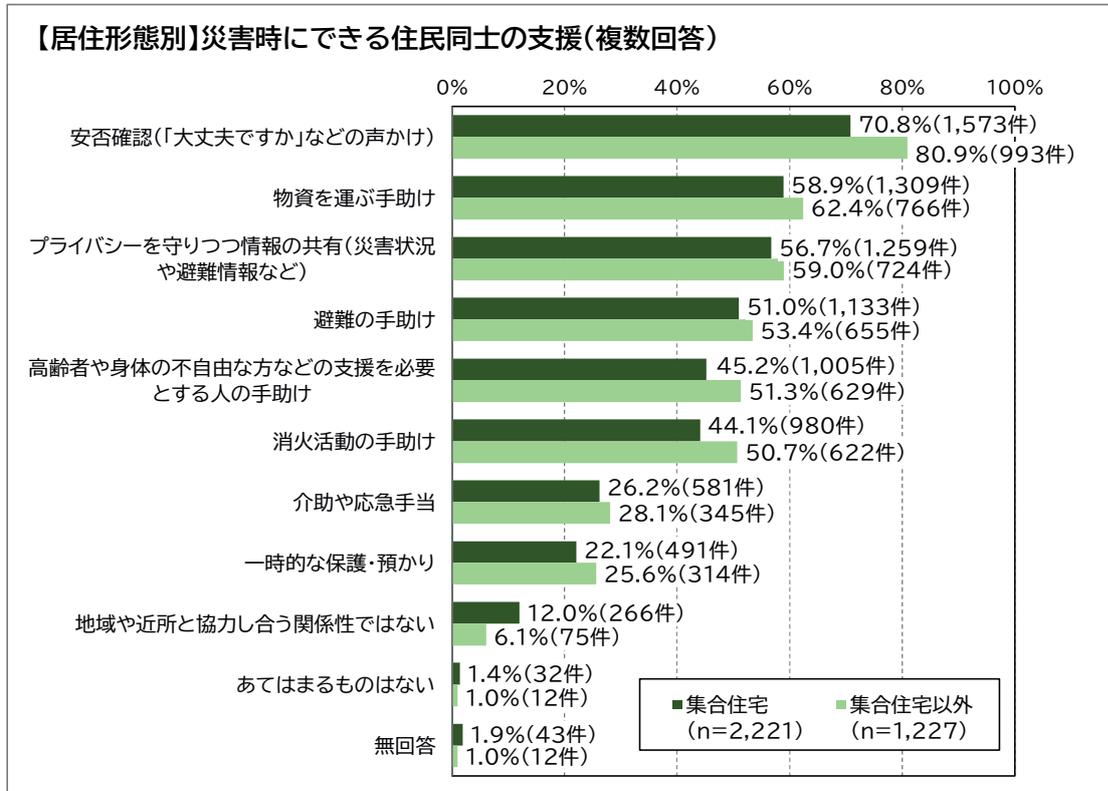


(7)区民アンケート(深沢地区)

クロス集計(4/4)

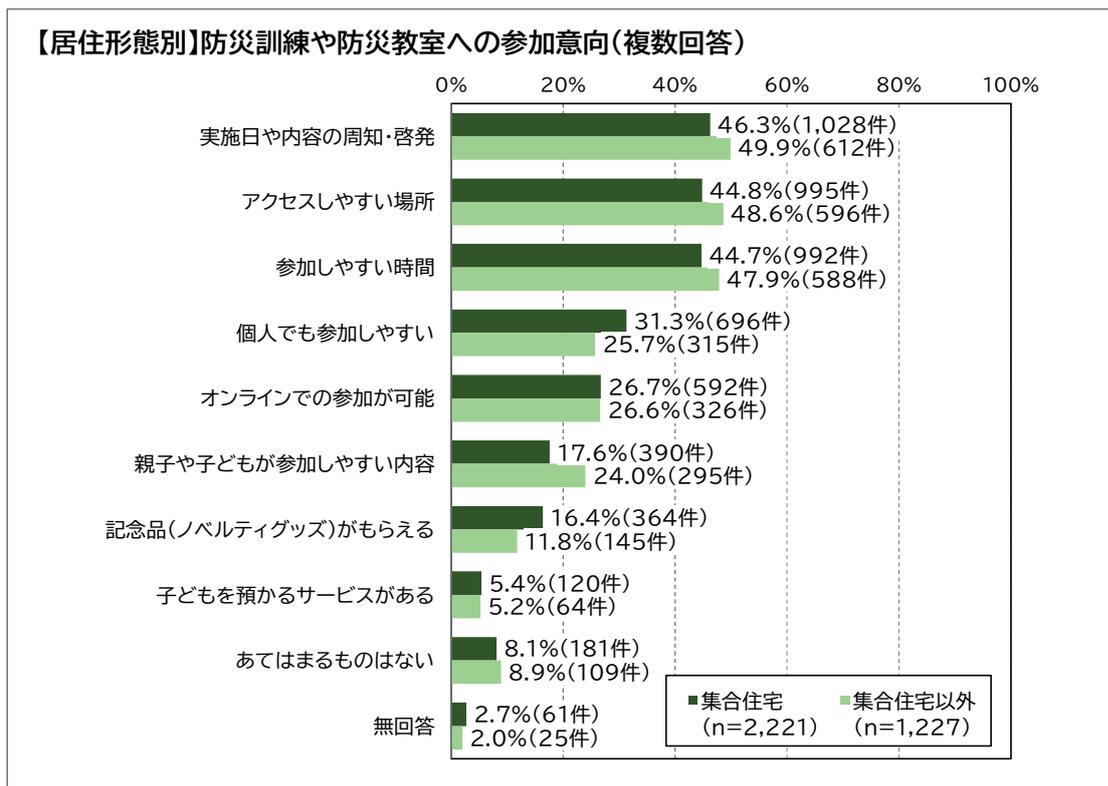
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備						
		実施している	実施していない	会議名	(年間回数)	実施している	実施していない	スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器		
								数量	場所	数量	場所	数量	場所	
深友会		○		町会役員会	16	○		○	4	町会内4ヶ所	1	防災倉庫	20	町会役員宅
東深沢町会		○		避難所運営訓練	1	○		○	1	東深沢町会防災倉庫	1	東深沢町会防災倉庫	9	町会地域内
交和会		○		防災会議	1	○		○	1	深沢中村公園	1	深沢中村公園		
深沢三友会		○		町会役員会	1	○		○	3	深沢5-11-1、深沢6-30-21、深沢7-14-3	1	(深沢神社) 深沢5-11-1		
新町公民会		○		消火器訓練担当者会議	5 2	○		○	2	公民館倉庫 役員宅(新町1丁目)	1	公民館倉庫	5	役員宅
桜新町親和会		○		理事会(必要に応じて検討)		○		○	3	防災倉庫1・2・3	1	防災倉庫1		
桜新町町会		○		町会防災部	3	○		○	1	稲荷神社			2000	町会全戸へ配備(17ヶ所) 式簡易消火具)
駒沢三丁目町会		○		町会防災会議	2 3	○		○	4	町会内分散設置2 防災倉庫2	1	町会防災倉庫		
駒沢町会		○				○		○	2	町会倉庫(2ヶ所)	1	町会防災倉庫	1	町会防災倉庫

団体名	消火資機材の配備		防災訓練等の実施						防災マップ										
	その他		実施している	実施していない	防災訓練		救命救急講習会		その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報				
	名称	場所			回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所					一時集会所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽
深友会			○		1	東深沢小学校			スタンドパイプ訓練	深沢1丁目深沢地区会館	○				○	○	○	○	○
東深沢町会			○		1	東深沢小学校			スタンドパイプ訓練 D型ポンプ訓練 C型ポンプ点検	深沢公園	○				○	○	○	○	○
交和会			○		1	東深沢中学校			D級ポンプ訓練 スタンドパイプ訓練	深沢中村公園	○				○	○	○		
深沢三友会			○		2 ~ 3	東深沢中学校、深沢6-10路上、深沢神社			防災講習会	深沢区民センター	○				○	○	○	○	○
新町公民会			○		1	新町1丁目公園	1	新町公民会館	スタンドパイプ訓練 D型ポンプ訓練	新町公民会館	○				○	○	○	○	○
桜新町親和会	ホース テント 発電機 投光器 他	防災倉庫1・ 2・3 防災倉庫1	○		6	桜新町区民集会所他	1	桜新町区民集会所	防災講習会	桜新町区民集会所	○				○	○	○	○	○
桜新町町会			○		1	深沢中学校 新町公園					○				○	○	○	○	○
駒沢三丁目町会	三角バケツ	町会防災倉庫	○		2 ~ 3	駒沢緑泉公園、深沢小学校	1	玉川消防署 新町出張所	ミニ減災訓練	駒沢緑泉公園	○				○		○	○	○
駒沢町会			○		1	深沢小学校	2	地区の講習会に参加	D級ポンプ訓練 スタンドパイプ訓練		○				○		○	○	

団体名	防災マップ			防災士等の数				災害時連携・協定 (区を除く)				避難行動要 支援者協定			避難行動要支援 者対策		
	掲載情報			防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの見守り活動	要支援者体験
	震災用井戸	消火栓	その他														
深友会	○		役員宅・医師・公衆電話・給水所・公共機関・その他	4			○	○			東深沢町会、米屋と協定		○			○	
東深沢町会	○	○	役員宅・医師・公衆電話・給水所・公共機関・その他	1			○	○			深友会		○			○	
交和会				4			○	○			深沢三友会			○		○	
深沢三友会	○	○		1		0		○			交和会			○		○	
新町公民会	○			1		18		○			駒沢町会、駒沢3丁目町会			○			
桜新町親和会	○	○	防災倉庫設置場所	1			○		○				○			○	
桜新町町会	○	○	公衆電話	2			○		○						○		
駒沢三丁目町会	○	○	防災倉庫、AED、スタンドパイプ、マンホールトイレ、給水所	3		3		○			新町公民会、駒沢町会				○		
駒沢町会	○	○		2			○	○			新町公民会、駒沢3丁目町会				○		

団体名	避難行動要支援者対策		連絡手段の確保				防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)				救出救助に係る 資機材の配備					
	その他	待てない 特の実施	簡易無線	作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架
深友会	要援護者協定名簿に基づき、役員・協力者により年2回の定期訪問を実施。その際、災害時には「私は安全です」のステッカーやタオルを用いて、安否を近隣に周知する重要性を説明した。		○	○	災害時安否確認用プレートと白タオル(安否目印用)	○				災害時役割分担表		○	2	1	1	2
東深沢町会	要支援者に限らず向う三軒両隣の声かけを行うためのチラシを作成して配布した。			○	災害時安否確認用白タオルかけ				○			○	2		4	1
交和会				○					○			○	1			
深沢三友会				○					○			○	1			1
新町公民会		○		○		○				防災対策マニュアル		○	1		1	1
桜新町親和会	①要援護者協定名簿に基づき、役員・協力者により年1回の定期訪問を実施している。 ②桜町高校の生徒と共に、要配慮者の避難を想定した訓練を行っている。 ③玉川消防署新町出張所と要配慮者宅を訪問し、家具転倒防止の必要性について啓発活動を行っている。 ④要配慮者を支援する町会役員宅と、要配慮者宅を地図に表示し、災害時の支援態勢を明確にしている。			○	○				○			○	1			
桜新町町会									○			○	1		1	
駒沢三丁目町会	災害時要援護者を自己申告で募り要援護者リストを作成。町会役員が年2回訪問。リストは町会役員と町会防災倉庫に保管。			○	無線機常設場所、地区会館				○			○	1	1	1	4
駒沢町会	町会の民生委員が把握しているが、提示されていない。			○					○			○	1			2

団体名	救出救助に係る資機材の配備											食糧等の備蓄							
	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	パール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハン	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類
深友会	1	20	1	10	1	1	1	1	1	1	防災用テント2張 寝袋14枚 ソーラーランプ20個	町会防災倉庫	○		30	30	24	36	
東深沢町会	1	10	1	1	0	2	1	1	0	0	災害時多目的テント(1) 車イス(1) ワイヤーカッター(2) ピッケル(1)	町会防災倉庫	○		4	0	0	0	0
交和会		5	1	1	5		1		1	1	テント1張、ブルーシート5枚、トラロープ(30m)2本、寝袋1枚、三角巾40枚、ハンドマイク1本、A型スピーカー1本、非常用0-7715本、避難袋セット2セット、常備灯8個	町会防災倉庫	○		160			10箱	
深沢三友会	2	40	1	2	1	1	1	1	1	1	拡声器、投光機	深沢神社	○						
新町公民会	2	30	1	1	1		1	1	1			新町公民会館	○		100		240	20	
桜新町親和会	1	31	1	3	3		4	3	4		台車2台 ロープ3m 電源ドラム 台車 ハンドマイク 水槽	防災倉庫1・2・3 (一部1のみ)	○						
桜新町町会	1	30	1	1	6			1	1		番線カッター	町会防災倉庫	○		○		180		
駒沢三丁目町会	3	30	2	4							エンジンチェンソー1台 防災用テント1張 ライト(AC)	町会防災倉庫	○					駒沢給水所の利用を予定	
駒沢町会	3	5	1	3	1	4	1	1			チェーンソー1台、番線カッター3個、簡易トイレ(テント付)1張	町会防災倉庫	○						

団体名	食糧等の備蓄										その他の防災活動	
	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所		備蓄品配布先
深友会	60	1		4	2	2		4	炊出し用釜セット	町会防災倉庫 町会役員宅		
東深沢町会					1		1		かまどセット アルミ鍋(2)	町会防災倉庫	管内住民	
交和会	280								ビスコ(10個入り)1 3個、ストロー浄水 器6個、牛乳石鹸 (24個入)6箱	町会防災倉庫		
深沢三友会	100				1	1				町会倉庫		
新町公民会	50		100	300	5	1		40	消毒スーパールド 3ケース、ウェットタ オル48枚	防災倉庫	地域災害者	
桜新町親和会												
桜新町町会				○	○					町会防災倉庫	老人、幼児、 傷病者	
駒沢三丁目町会					2	2			石油ストーブ2台	町会防災倉庫		
駒沢町会						2						

3 深沢地区の課題と取り組み

課題1 命を守ること

課題1の(1)安否確認

■現状(地区の共通認識)

安否確認において、「自助・共助・公助」が重要である。

自助 = 自分の命、安全は自分で守る

共助 = 家族や地域コミュニティで共に助け合う

公助 = 行政による救助・支援

防災の基本は「自助」である。自分の命を守ることで、家族や友人・隣人を助けられることができる。そのための日常的な心構えや備えを進めていく。また、「自助」としてできることに限界があるため、「共助・公助」として、住民、事業者、区の相互連携の形で協力できるように、日ごろから連携方法や支援方法を確認しておく。

■地区の取り組み

- * 災害時は、まずは自助の意識。そのための備えを行う
- * 自助努力(安否確認をしてほしい人が自身の状況を知らせる)
- * 玄関等に安否を知らせる(黄色いタオル目印など)
- * 家族の中で集合場所や緊急時の連絡先を決めておく
- * 顔の見える関係づくり(近所付き合い、防災塾や防災訓練への参加など)
- * 挨拶、声掛け(防犯対策にもつながる)

- * 近所の方々と助け合っていく仕組みづくり
- * 地域コミュニティの形成(地域のイベントへの協力・参加)
- * 住民、事業者、区の協力体制の構築
- * 地区内の要配慮者の名簿作成(人数の把握など)
- * まちづくりセンター、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、民生委員との協力体制の構築

課題1の(2)日頃からの備え

■現状(地区の共通認識)

これまでの震災では、家屋の倒壊や家具の転倒による圧死、窒息死が多く、事前の備えで生死が決まる。また、阪神・淡路大震災では倒壊した建物から救出され生き延びることができた人の8割が、家族や近所の住民等によって救出されている。そのため、日ごろから自分たちで対策や備えを徹底していくほか、対策等を地区全体に周知していく。

■地区の取り組み

- * 災害情報の収集(テレビ・ラジオ・防災行政無線・区 HP・区防災ポータルなど、なるべく多くの収集方法を確認しておく)
- * 家具の転倒防止対策の周知(防災訓練の場でPR、チラシの配布など)
- * 地区の中でどこが危険か、どこに避難すべきかを周知(防災マップの作成、配布)
- * 耐震診断、耐震強化の制度周知(防災訓練の場でPR、チラシの配布など)
- * 防災講習会の実施(防災塾、日赤、防災士会ほか)
- * 防災訓練の実施(防災対策に関心が薄い世帯への周知など)
- * 瓦礫からの救出訓練の実施(防災塾、地区町連防災訓練ほか)

課題1の(3)避難経路

■現状(地区の共通認識)

速やかに避難場所に避難できるよう、配布している防災マップなどで、あらかじめ避難場所の位置を確認しておく。(危険箇所や迂回ルートを事前に確認)

■地区の取り組み

- * 避難経路や避難場所の確認
- * 危険箇所の把握(訓練の実施、まち歩き)
- * 防災マップの活用
- * 主幹道路を横切れない場合の避難経路、避難場所の確認

課題2 地区全体の安全の確保と被害が広がらないための対策

課題2の(1)初期消火

■現状(地区の共通認識)

深沢地区は、住宅密集地域であるため、発災時の初期消火は、被害の拡大を抑えるうえで重要である。そのため、可能な限り初期消火にあたる。日頃から訓練等を通じて経験することがとっさの行動に有効である。

■地区の取り組み

- * 普段の備え(風呂の水をためておく)
- * 消火訓練(消火器訓練、スタンドパイプ訓練など)
- * 火災を出さない(感震ブレーカーの普及PR、火災予防チラシの配布など)
- * 防災備品の備え(防災備品カタログの配布など)
- * スタンドパイプの増設、訓練
- * 火災予防の訓練実施、参加

課題3 助かった人の命と健康が守られること

課題3の(1)避難所で生活しないですむための対策

■現状(地区の共通認識)

避難所は、自宅に居住できなくなった被災者を一時的に受け入れ保護する場所であるほか、物資の集積、情報の拠点といった「地域の防災拠点」の役割がある。しかし、避難所の役割を理解していない住民が多いほか、避難所の数も足りていないのが現状である。そのため、自宅で居住の継続ができる状況であれば、在宅避難をする。また、配給された物資は、避難所生活者・在宅避難者を問わず公平に行き渡るよう考慮する。

■地区における取り組み

* 避難所のあり方を理解する。避難所はスペース不足、プライバシーの確保が困難、感染症のリスク、ペットは別のスペースに滞在する等のデメリットがある。また、避難所は行政サービスではなく、避難者が運営の役割を担う必要がある。

* 避難者自身で自主的に避難所運営ができる仕組みづくり(避難所運営訓練の実施、避難所運営マニュアルの整備)

※過去の災害で避難者が自主的に運営した避難所では復興が早かった

* 1人最低3日分、できる限り1週間分の備蓄を用意する

備蓄品の例

水(1人1日3ℓ目安) 食料 スマホ充電器

カセットコンロ・ボンベ ライト トイレ(1人1日5回分目安) 常備

薬 乳幼児用品 ペット用品 など

ローリングストック

食料品や日用品など、普段使っているものを少し多めに購入し、古いものから順に使いながら常に一定の備蓄をキープしておく

課題3の(2)避難所運営の強化

■現状(地区の共通認識)

避難所は、狭いスペースでプライバシーやトイレ問題など過酷な場所である。

その中で、避難所を円滑に運営していくためには、地域住民、事業者(学校等)、区の三者があらかじめ共通認識を持ち、顔の見える体制づくりを図ることが必要不可欠である。

■地区における取り組み

- * 避難所運営訓練(災害の意識を持った具体的な内容の工夫)
- * 避難所運営強化に向けた避難所運営マニュアルや体制づくり
- * ストレス解消方法(ラジオ体操などの運動)
- * 避難所の建て替え要望
- * 日体大や駒大ほか地区にある施設との連携
- * トイレ設営訓練、トイレ運営方法の検討
- * 震災を想定した訓練内容の工夫(区画など)
- * 避難所の明かりの確保
- * 避難所の運営強化(大学生や高校生等発災後の支援=力)

課題3の(3)要配慮者への支援

■現状(地区の共通認識)

避難所運営にあたっては、特に要配慮者に十分配慮した避難所運営となるよう、想定をしておく必要がある。どう支援をしていくのか、民生委員や区とも連携し、

相互協力できるよう進めていく。

■地区における取り組み

- * 情報連携方法の確立、支援の仕組みづくり
- * 顔の見える関係づくり、定期的な訪問
- * 避難所への移送方法(動ける避難者に協力してもらう等)

課題4 地域の復興に向けた支援を早く受けられること

課題4の(1)避難所運営組織のリーダー

■現状(地区の共通認識)

避難所運営のマニュアルがあっても、日中は仕事等で地域に人がいないことが考えられ、人手不足やリーダー的存在がいないといったことが想定される。

誰でもリーダーとなれるよう実践的な訓練を行い、臨機応変に避難所運営ができる仕組みづくりを進めていく。

■地区における取り組み

- * 防災の知識を身に着ける研修や訓練の実践(リーダーの育成、地域の学校に通う生徒の保護者を対象にするなど。防災士の受講。)
- * 学校での防災教育の推進(防災訓練への参加、起震車体験など)
- * 専門的な研修の実施(避難所運営ワークショップの実施など)